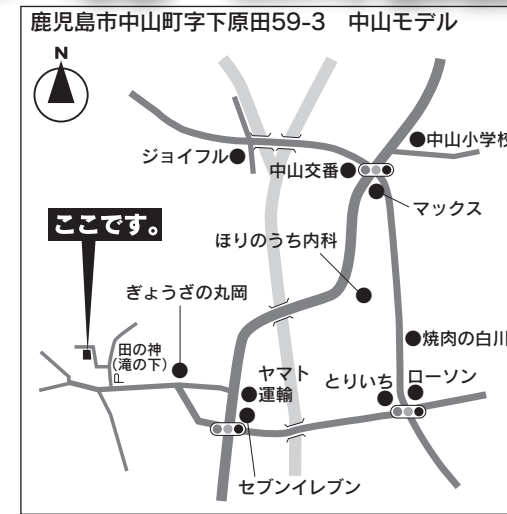


ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー 2013・スペックの展示場

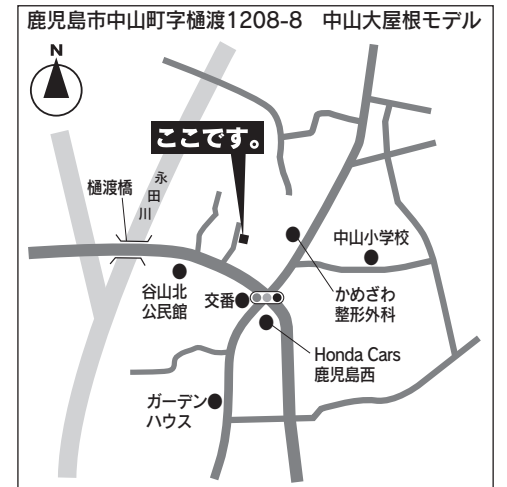
中山展示場 公開中!



本展示場は【ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー 2013】大賞受賞スペックを参考にして造った展示場です。暖冷房はエアコンだけという最もシンプルな構成で住宅性能の良さだけで、省エネルギーを目指した展示場です。これから逼迫が予測されるエネルギー事情を見据えた高性能展示場です。下記「平屋感覚の展示場」のすぐ近くですから、両方を同時にご見学下さいませことをお勧め致します。下記展示場は太陽光発電搭載の「ネット・ゼロ・エネルギー」住宅です。

平屋感覚の中山展示場 公開中!

鹿児島における家づくりへのこだわりから生まれた住まい。



ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー 2013・スペックの展示場

川内展示場 公開中!



本展示場は【ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー 2013】大賞受賞のスペック通りに造った展示場です。エアコン一台程度で冬も夏も快適な暖冷房を可能とした省エネルギー、超高性能住宅です。鹿児島県に相応しい期間蒸暑地域対応型住宅として、全国的に評価された工法です。夏と中間期にご見学された方は、これから始まる冬の暖房環境について体感して下さい。設備は少なれば少ないほど、更新に必要な資金は少なくなります。

住宅に関する資料等もフリーダイヤルにてご請求下さい。資料等をお送り致します。 ☎0120-079-089

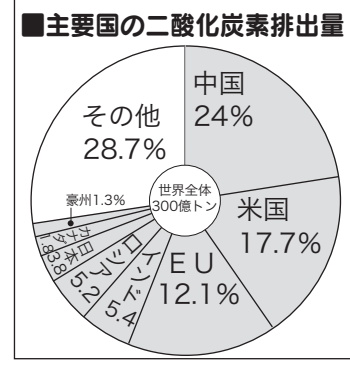
ひこうき雲

石炭火力では、温暖化は止められないと石炭発電を進める日本の立場に非難が集中!

日本は交渉の足を引っ張る国としてNGOが批判を込め『化石賞』授与。

COP20 脱石炭で日本の立場、微妙!

排出量、2大国の米・中 主導で脱石炭で一致。



世界の潮流に逆行する 我が国の温暖化対策!

ペルーのリマで開催された第20回国連気候変動枠組み条約締結国会議(COP20)は、今までの交渉とは様変わり、排出量の2大国である、米と中国の主導で一応の前進を見る事となりました。

原産の再稼働を早めたいにもかかわらず、再稼働の見直しも全くなされておらず、再生可能エネルギーにも、送電や変電設備の対応が出来ないためにストッパを掛けざるを得ない我が国は、世界から見ても非常に微妙な立場で、地球温暖化対策として日本政府が途上国の石炭火力発電所の建設を支援する方針に、脱石炭に逆行する流れとして国際的な批判の音が上がっています。

リマのCOP20の会場で、世界のNGO950を超える団体が参加する「気候行動ネットワーク」は大きな失望と共に日本政府を批判し、化石賞を贈りました。授賞理由は「日本が支援し、インドネシアに建設する石炭火力発電所に拠出した約10億ドル(約1200億円)が、日本の温暖化対策を目的とする基金から出たため」として、日本政府の立場は「石炭火力発電でも、エネルギー効率が高ければ温室効果ガス排出量を減らす取り組みになる」と言う理屈ですが、これは国内で原発から新規の石炭火力に頼っている我が国の現状を代弁する理屈で、発電に伴う石炭火力の二酸化炭素排出量は、高効率の石炭火力でも液化天然ガス火力の倍に上るのが現実です。

「リープフロッグ」(英語でカエル跳びの意味)型の発展を呼びかけている削減先進国の立場であり、「リープフロッグ」は途上国が、化石燃料に頼ることなく、再生エネなどの導入で一足飛びに低炭素社会に向かう概念であることから、全く逆行していると思えられているのです。しかも、最大の排出国である米・中も脱石炭火力を宣言している中で、日本だけが石炭火力に戻るといって、逆行した考え方が問題視されているわけです。

矛盾する我が国の環境対策に世界の怒りの声! 昨年11月に、ポーランド・ワルシャワで開かれたCOP19で日本の環境省は「途上国は先進国の技術を導入し、低炭素化を進めてほしい。化石燃料に頼らない発展は可能である。」と呼びかけており、石炭火力への支援は矛盾した対応と受け取られて「化石賞」受賞となっていました。

米英は石炭火力を規制、世銀も融資制限! 米環境保護局は、発電部門から出る二酸化炭素を05年比で3割減とする規制案を提示し、石炭火力が規制の主な対象となり、多くが運転停止を求められそうです。また、EU(欧州連合)も石炭火力発電所新設にはCO2を回収して貯留するための用地確保を義務付け、特に英国は二酸化炭素の回収・貯留のセツトでなければ新設を認めない方針を示しています。エネルギー開発などに融資を行う世界銀行も、石炭火力発電への融資制限方針を決定しています。我が国も将来的な立場を明確にして再生エネルギーの活用を舵を切る必要がありそうです。



赤トンボ

ツルバラの花が可憐に咲いていました。季節外れのこの花に誰も見向きもしないでしょうが、花は小さくても中々気品のある花が一輪咲いていました。年の瀬の花はツバキやサザンカで路傍に咲いているツルバラの一輪の花に目を奪われます。ツバキやサザンカは、ツバキ科の花でバラとは関係のない花ですが、ツバキは照葉樹林帯の花で、バラは北半球の温帯域に広く自生し、チベットの周囲や中国の雲南省が原産地です。南半球にはバラの花は自生していません。原産地から考えれば、ツバキは寒さに強い花なのかも知れません。

